

-長州藩データまとめに戻る-

**【PR】長州藩モチーフのアクセサリ&グッズショップ「小間物屋歴史」**

西暦	旧暦	時間	真木和泉	大塚文雄	寺島三郎	入江九一	伏見・長州藩邸(先鋒隊 500)	福原越後(越後隊)	國司信濃(越後隊)	赤鳥又兵衛(遊撃隊大尉)	他	
1864年8月18日	元治元年7月17日	14:00 or 15:00 頃	大幹部ら20人ほどが集合 進軍派の赤鳥さんVS自重派の久坂が大喧嘩									長州浪士たちは 意気揚々と 赤鳥さんに大賛成
			久坂に意見を求められ 赤鳥さんに同意 [3]	援護を期待し 真木さんに意見を求めるも あてが外れる [4]	久坂と同意 [2]						「準備はできているか？」 とやる気満々 だが一向は黙して答えず	
		日暮れ	18日の夜に進軍することを決定									
1864年8月19日	元治元年7月18日	時刻不明 これ以前	御所・彦津川の金津藩へ先制攻撃を想定									福原の求めに 大田を推薦
			解散・帰陣									
		20:00(初更)	宝積寺へ帰る途中 若手の長州藩士は 谷川の水を小瓶に盛り 路端に積んであった材木に膝をたてて座り 水杯を交わし相別れる [6]							福原・益田・国司 3総大將連盟で 「会談討伐」の旨を朝廷に奏上		榊原十郎が 4連の封鎖を携え 赤名藩に提出 在京諸藩に 義孝の真意を伝える 徳川慶喜が 長州藩士らの追討を命じる
00:00(九つ)	山崎・藤宮八幡宮を出発 西園街道を北上	南ちゃん曰く 久坂の顔色は蒼白で 寺への帰路は 一言も言葉を交わさなかった [7]			のちに 「この時の別れの心情は 未だに忘れられない」 と語る [8]							
1864年8月19日	元治元年7月18日	時刻不明 これ以前	進軍開始									福原の求めに 大田を推薦
			東海道を上り藤森へ 前軍を指揮									
		02:00(八つ)	2km進んだ淀城あたりで京への連絡のため鐘を鳴らす 粟生(くりゅう)光明寺の前を通過 このあたりから桂川までの三里(約11.8km)の路面が悪く 松車を運ぶのに苦しむ 松後庵が出現									
1864年8月19日	元治元年7月18日	00:00(九つ)	大田の益田は隠り 天王山・藤宮八幡宮に陣を移し本營とする 伏見の方向から砲撃音									3隊いづれも御所内へ突入
			藤森神社付近で大垣兵と戦闘開始									
		02:00(八つ)					陣頭の乃木初之助(17)が まず討たれる 抜刀し 「逃げる」と斬るぞ！」 兵を鼓舞し奮戦 大砲兵を撃退 伏見橋樑へ進軍	中軍で後方に				
夜明け	山陰街道に合流して榎原(かたぎはら)を通過し東へ											
04:00ごろ(7つ)	桂川の河原で新倉中に御所の方向から砲撃音 「逃げ！」と指揮									命なし死傷 射死 [10]		
	七条に向う											
	桂川をわたり旧西七条村で北上 松原通で御土居廻(おどいばり)を通過									力士隊が遺骸を担いで退却		

1864年8月20日

元治元年7月19日

							再び竹田街道を遡撃 銭取欄に布陣する 新道館などが 野原から退却してきて 進めず 山崎に敗走	敗走 寺町御門へ 寺町御門を守る肥後と 通一手の血陣に 踏み躪らされ死傷者多数	原は次第に崩れ 山崎に敗走 見玉殿も敗走
朝	08:00(辰の中刻)	堺町通りを押し上る	<b>境町御門で越前兵と戦闘開始</b>						
		鹿司部の瓶を足場にして横方向に砲撃 [11] <b>越前兵を撃破 [12]</b> <b>越前兵は北へ退却 [13]</b> <b>龍軍兵を撃破</b>	なるべく 戦闘を避けようとする 大声で号令						
		境御門を避けて右折 柳の馬場通りを経て裏門から鹿司部へ 裏門は仙洞御所に近く 会津の陣・凝華洞(お花畑)との間を過ぎれば内裏	<b>鹿司部内へ侵入</b>						
	10:00(巳の時)		参内直前の鹿司部と出会う 東藩の權にすがり 「お供させてください」と 懇願するも取り切られる <b>長州の陣手は崩れで本陣に敵が一手集中</b>						
		<b>彦根・桑名兵と交戦 [14]</b> 長州兵は鹿司部を固守 [15] <b>会津兵が鹿司部の西北角を遡撃 [16]</b>	<b>敵兵が鹿司部内に乱入</b>						
		<b>長州兵は敗走をはじめる [17]</b>							
	越前兵との戦闘の 少し前 [18]		河北・志道・南・天野と会う [19]	<b>3人で議論</b>					
	河北と会ってから (河北談なので) [20]		死んで因子の本分をつくすことを決意 [21]	<b>軍を率いて 再び天王山に集い 優勢を露ることを決意 [22]</b>					
		入江との別れに涙 [23]			久坂の涙を見て やさしく笑んで 久坂の髪を整えてあげる [24]				
		すでに膝を負傷して 歩行が困難に [25]							
		足を引きずって 鹿司部の奥から出て来る [26]							
		「もうこんな有様だ 世子公も途中まで お出なのに 君公に申し訳ない次第だ。 いま我々が君公のために 成すべきことは 君公が 京に近づかないうちに 速やかに現状を 御法進申し上げた ということだ」 と語る [27]							
		4人は何としてでも 逃げるように指示 [28]							
		4人は部屋の間で協議 脱出は不可能なので 共に戦死すると一決 [29]							
		それを聞くと 「仕方ないな」と言い 再び鹿司部の奥へ [30]							
		4人が見た 久坂の最後の姿だった [31]			<b>久坂・寺忠と別れて 天王山へ向う [32]</b>				
	河北が 久坂と別れてから [33]	<b>龍軍・越前・桑名兵がふたたび会津の援護に [34]</b>							
		敵兵が鹿司部内に充満 [35]							
		<b>鹿司部兵上</b>							
					敵の兵は鹿司部の南風門か ら脱出 [36] <b>長州兵は逃めない</b> 後門を開くよう命じ まず自ら槍をとって突撃 敵兵を刺す [37] <b>目を負傷 [38]</b>				
		<b>会津・龍軍・越前・彦根・桑名らが鹿司部を囲い攻撃が激化 [39]</b>							
		鹿司部の中小姓・兼田義和が 久坂・寺忠を目撃 [40]			<b>長州兵も鹿司部から脱出 [41]</b>				
	時刻不明	兼田さんが寺忠は無傷だから 支援するので脱出して下さいと勧める [42]			重傷で退き 鹿司部内の土柵の側に座り 兜の紐を解こうとする [43]				
		「いやだ どうしても久坂さんと 一緒に死ぬ 義理合いだから 最後をみとどけてくれ」 と断る [44]			河北くんがそれを見て 走り寄り 介錯をさるかどうか問う [45]				

				お馬口で割腹 [46]	もう声を発することができず 手ですぐに逃げるように示す [47]			
				兼田さんは脱出 [48]	河北くんはそれに従い退却 [49]			
			鷹司邸を脱出		のちに入江の最後を 見届けられなかったことが 悔やまれると語る [50]			
			山崎に敗走		戦死			
1864年8月21日	元治元年7月20日		天王山で両士16名と自決					
1864年8月22日	元治元年7月21日	朝		市衝はようやく鎮火				
		鎮火後なので おそらくこの辺		鎮火のあと現場に戻る 2人の遺骨を発見 骨壺に納め 一徳寺に持って行き埋葬 [51]				
		維新後		遺骨を霊山に移される 萩の杉家の墓地にも分骨				

[【PR】土蔵相模に集う長州藩士からツケ60面を取り立てろ！？長州藩乙女ゲーム「魂魂テロリズム」体験版公開中](#)

[-長州藩データまとめに戻る-](#)

- [1] 「忠正公勤王事蹟」中原邦平
- [2] 寺忠は会議に居た記述なし
- [3] 「追懐録」野村靖
- [4] 「追懐録」野村靖
- [5] 「元治甲子禁門事変実歴談」馬屋原二郎より南貞助の談
- [6] 「追懐録」野村靖より御掘の談
- [7] 「追懐録」野村靖より南貞助の談
- [8] 「追懐録」野村靖より御掘の談
- [9] 来島さんは馬上で金の采配を振って指揮していたので目立った
- [10] 来島さんの配下で討死した者は、すべて敵に向かって倒れていたという
- [11] 「京都守護職始末」より
- [12] 「京都守護職始末」より
- [13] 「京都守護職始末」より
- [14] 「京都守護職始末」より
- [15] 「京都守護職始末」より
- [16] 「京都守護職始末」より
- [17] 「京都守護職始末」より
- [18] 「禁門事変実歴談」より
- [19] 「禁門事変実歴談」より
- [20] 「追懐録」野村靖より河北義次郎の談
- [21] 「追懐録」野村靖より河北義次郎の談

- [22] 「追懐録」野村靖より河北義次郎の談
- [23] 「追懐録」野村靖より河北義次郎の談
- [24] 「追懐録」野村靖より河北義次郎の談
- [25] 「禁門事変実歴談」より
- [26] 「禁門事変実歴談」より
- [27] 「禁門事変実歴談」より
- [28] 「禁門事変実歴談」より
- [29] 「禁門事変実歴談」より
- [30] 「禁門事変実歴談」より 久坂が無言で「こいつら連れてって」的に入江に合図とかしてたら萌える
- [31] 「禁門事変実歴談」より
- [32] 「追懐録」野村靖より河北義次郎の談 河北くんも同行か？
- [33] 「禁門事変実歴談」より
- [34] 「京都守護職始末」より
- [35] 「追懐録」野村靖より河北義次郎の談
- [36] 「京都守護職始末」より
- [37] 「追懐録」野村靖より河北義次郎の談
- [38] 「追懐録」野村靖より河北義次郎の談
- [39] 「禁門事変実歴談」より
- [40] 「忠正公勤王事蹟」中原邦平より兼田義和夫人の談
- [41] 「追懐録」野村靖より河北義次郎の談
- [42] 「忠正公勤王事蹟」中原邦平より兼田義和夫人の談

[43]「追懐録」野村靖より河北義次郎の談

[44]「忠正公勤王事蹟」中原邦平より兼田義和夫人の談

[45]「追懐録」野村靖より河北義次郎の談

[46]「忠正公勤王事蹟」中原邦平より兼田義和夫人の談

[47]「追懐録」野村靖より河北義次郎の談

[48]「忠正公勤王事蹟」中原邦平より兼田義和夫人の談

[49]「追懐録」野村靖より河北義次郎の談

[50]「追懐録」野村靖より河北義次郎の談

[51]「忠正公勤王事蹟」中原邦平より兼田義和夫人の談